8

Collection of Songs for Primary Schools and Homes.

童謠唱歌名曲全集

田村虎藏·福井直秋·小松耕輔·共編

第四卷

東京 京文社 刊行

EDITION·KYOBUNSHA·TOKYO

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:04:35

43. 金波銀波

犬童球溪 歌
山本正夫 曲

爽快に【♩=120】

mp

1. イ マシーモー ノ ーボル ア ーーサ ヒー
2. い ましーもー し ーづむ ゆ ーーふ ひー

f

ニ ゴ コッーーーハ ヨ ーーモ ヲ
に ひ とすーぢー あ ーーか く

柔和に

p

ソ ーーメ ッー ッ
そ ーーめ つー つ

シ ロ ガ ネ ノ
こ が ね ー の

E137204555 柿澤 敬一 2023/10/21 01:04:35

犬山 童本 球正 溪夫 歌曲

ナーミハタダーヨーヒ
なーみぞよせーくーる

ハテシーモワーカーヌウナバラ
はてしーもしーらーぬうなばら

ソラニハカーモーメミイーツヨッ
おきにはしーらーほみいーつよっ

f *rit.*

E13720455 梅澤敬一 2023/10/21 01:04:35

あやしく奇しきは　雲よ　雲よ。
二　夕日にいろどる　橋をわたし
み空に聲せぬ　浪を起す
雲てふものこそ　奇しくありけれ
雲よ　雲よ
無きかと思へば　大空おほひて
あやしく奇しきは　雲よ　雲よ。

四二　秋　曉

川路柳虹歌　阿保寛曲

一　落葉焚く火の　朝けむり
霧も晴れゆく　木の間より
墨繪の色に　明けそむる
山の紅葉の　うつくしさ。
二　溫泉に通ふ　釣橋に
駄馬曳く子の　かげ見えぬ
流れの水に　口すゝぎ
朝のつめたき　氣を吸はむ。

四三　金波銀波

犬童球溪歌　山本正夫曲

一　今しも昇る　旭日に
後光は四方を　染めつゝ
白銀の波は　たゞよひ
涯しも分かぬ　海　原
空には鷗　三つ四つ。
二　今しも沈む　夕日に
一すぢ赤く　染めつゝ
黄金の波ぞ　寄せ來る
涯てしも知らぬ　海　原
沖には白帆　三つ四つ。

四四　乃木大將

吉丸一昌歌　小松耕輔曲

一　夢より淡き　三日月の
大内山に　かぐろひて
先の帝の　御車は
果のいでまし　あらせらる。
二　火砲のひゞき　轟きて
宵闇やぶる　一刹那
乃木大將は　御後を
慕ひまつりて　逝きにけり。
三　日頃捧げし　誠心は
また魂に　なりかはり
天つ御國の　大君に
天地の共　仕ふらん。
四　六十四年の　生涯は
日本の武士の　鑑にて
をはる最後の　かゞやきは
純美崇高　極みなし。
五　起てよ武夫　武士道の
權化を前に　認めずや
今し鋭心　起らずば
腰のつるぎに　恥あらん。
大　わが帝國の　同胞よ
鬼神涙に　咽ぶべき
この壯烈に　勇まずば
汝の胸に　血汐なし。

四五　希　望

杉谷代水歌　獨國風曲

一　空に見ゆる雲は追はじ　我はたゞ
今の業に　末の望かけまし。
二　水に浮ぶ影はあはれ　時の間
消えず朽ちぬ　永久の寶もとめん。
三　雲よ影よ人は多く　迷へど
我は斯くて　後の榮待たまし。

四六　月と母

西條八十歌　中山晋平曲

一　優しきものは　夜の月
とはに曇らぬ　一すぢの
清き光を　はなちつゝ
わが世のはてを　照しゆく。
二　たふときものは　生みの母
いつもかはらぬ　一すぢの
み胸の愛に　守りつゝ
我等の爲に　生きたまふ。
三　ふかき迷ひに　在るときも
月のおもてを　眺むれば
狹霧は晴れて　ほがらけき
昔にかへる　心地すれ。
四　あらぬ惱みの　責むる日も
母の御聲を　きく時は
惱みは消えて　その昔の
清き心ぞ　湧きいづる。
五　あゝ我が友は　月と母
母と月とに　みちびかれ
清けき道を　辿るこそ
少女のわれの　希ひなれ。

四七　月下懷鄕

下村湖人歌　獨逸國民曲

一　照らすか月影　三國一の
富士より落ち來る　清水のながれ
清水に米とぐ　我がふるさとを。
二　戀しや故鄕　思へば今も
かすかにひゞくよ　やさしき母の
御膝に眠りし　むかしの歌の。
三　針の手休めて　同じき月に
この身やおぼさん　老いたる母は
みそばに侍りて　絲繰る姉と。
四　照らすか月影　父ます墳を
おもへば身にしむ　幼き汝が
行末いかにの　今はの御言。
五　打連れ鳴連れ　雁こそ渡れ
いづこの山越え　里越え來しか
はや影幽かに　月たゞ更けぬ。

四八　小　菊

蘆田惠之助歌　リヒター曲

一　籬に亂るゝ　小菊は愛らし
赤　白　黄色　とり〴〵咲きぬ。
二　ひともと植ゑたる　小菊も萎らし
秋知り顔に　今朝咲き出でぬ。
三　小庭もこれより　暫しは賑はふ
小菊の盛り　あはれぞ深き。

四九　村　祭

吉丸一昌歌　外國曲

一　向ひの岡の　鎭守の森に
祭の旗は　ひら〴〵ひらめく。
二　神樂の太鼓　とう〴〵たらり
たらりと笛の　ひゞきも聞えて。
三　折り〴〵どよむ　鬨の聲々
すまふも今や　酣なるらん。

五〇　軍隊歡迎

旗野士良歌　ルーート曲

一　遠音に響く　伴の男達を
迎へ祝ふ　今日ぞ
鬼にも勝る　丈夫達を
迎へ歌ふ今ぞ
世の事には　身を捧ぐ
勇ましや　雄々しや
我等の後は　さこそ成らめ
勇ましや　雄々しや。
二　軍の樣の　嚴めし猛し
宜し怖る　敵は
思へばもとは　同胞・親族
おなじ國のみ民
世のためには　身を殺す
勇ましや　雄々しや
人たるものは　斯ぞあらん
勇ましや　雄々しや。

五一　木　曾　川

青柳善吾歌並曲

一　信濃の深山に　春や來ぬる
散りにし花瓣　波にうかぶ
三　尾上の鹿の　友呼ぶ聲
もみぢ葉さそふ　夕の鐘。
四　木の葉の時雨　降りしく庵
雪げのそらに　夕の鐘。

三　夕映こそ　いろ〳〵の
中にも優れし　色よ。

五七　秋の野

久保田宵二歌

小鎌を腰にさして　夕暮歸るや川端
よひ月　すでに明し
小牛よ　いざや急げ
妻子も待ちてや　詫ぶらん

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:04:35

昭和七年一月廿一日印刷
昭和七年一月廿七日發行

◇豫約出版◇ 童謠唱歌名曲全集
第四卷・豫約價 金貳圓八拾錢

編纂者 東京市牛込區築土八幡町三一 田村虎藏
編纂者 東京市外長崎町荒井一八八四 福井直秋
編纂者 東京市外杉並町阿佐ヶ谷四八五 小松耕輔
發行者 東京市神田區淡路町二ノ二 鈴木芃
印刷者 東京市芝區金杉新濱町一二 單式印刷株式會社 代表者 和田助一

發行所 東京市神田區淡路町二ノ二 振替口座 東京 八二二六番 京文社 電話神田(25)三九〇番 三九二番

E13720455 梅澤 敬一 2023/10/21 01:04:35